

令和5年度 天理中学校 学校評価 <教職員用>

令和5年度 天理中学校 学校運営計画		評価 A:きちんと取り組んでいる B:ほぼ取り組んでいる C:あまり取り組めていない D:全く取り組めていない		
重点目標	目標達成の方策	評価	○成果 と △課題	
信条教育	1 教師自らが道を求め、折に触れ神様のお話を取り次ぐ。	B	年祭活動が始まり、教職員一同も活発な活動が展開された。自分の背中を見せられるよう、生徒の手本となる行動を心がけている。朝の学校参拝が全面的に再開され、始業前のお願いづとめにとどまらず、定刻参拝でも熱心に務める様子が見られた。おさづけは教室や保健室のみならず、職員室やプールでも積極的に取り次がれ、年間でのべ150人以上に取り次ぐ教員もいた。また、その姿を見て自ら別席に志願する講師もいた。 課題としては生徒に話をする際に、おみちの話を含めることが難しいと感じている教員も多く、教理勉強会の開催などを含めて信仰を次代に受け継ぐ体制を整えることが求められている。	
	2 「よふぼく」教師であることを常に自覚して、積極的に生徒に働きかける。	A		
	3 「おさづけ」の取り次ぎと「お願いづとめ」を積極的につとめる。	B		
	4 ひのきしんの活動に生徒とともに積極的に取り組む。	A		
生徒指導	5 規律正しい学級づくりのため、授業終始の挨拶指導の徹底を行う。	A	本年度もすべての項目でA評価であった。服装や頭髪指導、遅刻への指導、問題行動に対して組織的対応をそれぞれの教員が心がけた成果であると考ええる。 いじめ問題等については、各学期に「いじめ」に係るアンケート調査を実施し、その結果を踏まえ、教育相談と連携し、学年会議を経て、各学年・クラスで問題行動、いじめ、嫌がらせなどの問題に対処するよう努めた。また普段から報告・連絡・相談を密にして、気になる生徒の様子を職員室等で報告し合う場面が見られた。職員会議でも初期対応の大切さ、担任1人で抱え込まないことやささいなトラブルであっても教員間で報告し合うことが大切であることを再認識することができた。 不登校生徒や欠席が続く生徒への対応も、家庭への連絡、家庭訪問をこまめに行い、適切な支援や働きかけに努めた。 生徒指導上の諸問題についての学校全体の取り組みとして、交通安全教室やネット非行被害防止教室、薬物乱用防止教室を実施した。それぞれの講演から得られるものも大きかったと感じている。 今後、時代の変化とともに様々な問題が予想される中、教員自身の対応力が問われることになる。引き続き緊張感を持ち、生徒指導にあたっていきたい。	
	6 部活動指導における生活指導の徹底を図る。	A		
	7 問題行動において、学級・部・学年から学校全体としての組織的な対応を行うとともに、保護者との連携を密にしてすすめる。	A		
	8 服装や頭髪、時間、交通ルールなどのきまりを守らせ、規範意識の向上をめざして日常的に指導を行う。	A		
	9 挨拶・返事・言葉遣い・無言昇殿など、全教員が意識を統一して指導を行う。	A		
	10 遅刻指導などを通して、個々の生徒の心の動きに気づき、家庭訪問を行うなどきめ細やかな指導を図る。	A		
	11 いじめ問題の重大性を全ての教職員が認識し、学校長を中心に未然防止「いじめを生まない土壌づくり」を組織的に取り組む。	A		
	12 いじめの態様や特質、原因、背景、具体的な指導上の留意点などについて、職員会議や校内研修などの場で取り上げ、教職員間の共通理解を図る。	A		
	13 いじめ問題を、特定の教職員が抱え込んだり事実を隠したりすることなく、報告、連絡、相談を確実にし、学校全体で組織的に対応する。	A		
	学習進路	14 基礎基本に重点をおき、くりかえし取り組むことの大切さを教える。		
15 適切な内容の課題を与え、やりとげさせる指導を行う。		A		
16 管内学校などの進路情報を提供し、生徒の意識づけを図る。		A		
17 個々の徳分に気づかせ、それをいかす方向で進路を考えさせる。		B		
研修	18 研究授業を実施し、教員の授業技術を向上させる。	B	公開授業については、実施が年度末に集中したことにより、例年よりも評価を下げた。今後は計画性をもって公開授業を実施し、教員間でよりよい情報交換ができるようにしたい。研修には、AEDの研修の他、外部講師を招き、教員のモチベーションを上げるための研修や、生徒の命に関わる研修を行った。各部会や学年とも連携しながら、より一層、研修に力を入れていきたい。	
	19 計画的な研修を行い、教員の継続的な資質向上を図る。	B		
人権教育	20 いじめなど、不合理・矛盾に気づき、正しいことが主張できる態度を育てる。	A	人権教育指導計画に基づいて、人権作文、各学期のいちれつきょうだい学習に取り組んだ。本年度は7月の人権教育講演会を生徒指導とタイアップし、『ネットスマホ安心講座』を実施した。人権作文の内容の中には、いじめについて、仲間とのつながり、言葉の大切さなど、人間関係についてのつながり方の内容の作品が多く見受けられた。今後も学校生活において時代にそぐわない偏見などに注視していきたい。いじめ対策については、各学期、県教育委員会のアンケートや校内アンケートを通して、早期発見、対策に努めた。3年生は、「進路を見据えて」と題して、外部講師の講演を実施し、目標や夢に向けて自ら考え実行できる心を養い育てる為の良い意識づけとなった。今後もいちれつきょうだい学習を充実させ、様々な視点から人権を学び、神様の教えに通ずる心を養い育てていきたい。	
	21 差別やいじめなどを排除し、人の立場に立って考え、行動できる力を身につけさせる。	A		
	22 自分の進路を開拓し、社会の発展に努める力量を育てる。	B		
教育相談	23 支援を必要とする生徒の把握につとめる。	A	日常の生徒観察や保護者との面談、教員間の情報共有により、不登校生徒や欠席の多い生徒、支援を必要とする生徒の把握に努めた。生徒本人や保護者に対して適宜、カウンセリングや別室の利用を促し、養護教諭、スクールカウンセラー、オアシスフレンドとも連携し、個別の支援を検討し対応することができた。また不登校生徒に対しては、学級担任が定期的な家庭訪問や学校での保護者面談を行っている。多様な教育機会の一つとして、本年度より、別室に通う生徒に対して、授業のオンライン視聴を可能にした。支援を必要とする生徒は年々増加しており、抱える問題が多様化、複雑化している。現状、できる限りの支援を実施しているが、さらに個々の事情に合わせて丁寧に対応していくことも必要となってきたため、支援体制を強化していきたい。今後も生徒の状況把握に努め、適宜、合同カンファレンスで情報共有し、組織的な支援を行って、授業復帰や社会的自立に向けた支援体制を継続したい。	
	24 支援を必要とする生徒へ、迅速かつ適切に対応し、必要に応じてカウンセリングにつなげる。	A		
	25 適切な支援を行うため、合同カンファレンスを行う。	B		
	26 支援を必要とする生徒への、有効な別室の活用を進める。	A		
美化	27 感謝の心で活動を実践するよう指導する。	A	日々の清掃を、教職員・生徒たちは一生懸命に取り組む、それぞれに与えられた役割に責任を持って行い、美しい学校を維持することの大切さを学んでいる。また、廻廊ひのきしん、街頭ひのきしんや大掃除を通して環境を整える大切さを学び、天中生としての自覚が芽生えていることを感じる。教職員は、生徒の手本となるようしっかりつとめ、様々な清掃・美化活動を通して生徒に感謝の心が育つように今後も努めていきたい。 校舎周りの木々の剪定など教育環境の整備も実施している。校舎の築年数も約50年となるので、校舎等を丁寧に扱うことの重要性もしっかりと指導していきたい。	
	28 「天中は美しい学校です」と言える学校をめざす。	A		
	29 美しい学校だと感じる環境をみんなで作る。	A		